

2024  
第72回 全日本吹奏楽コンクール  
第24回 東日本吹奏楽大会  
第30回 東関東吹奏楽コンクール  
予選

第64回茨城県吹奏楽コンクール  
第37回茨城県吹奏楽コンクール中央地区大会

[運営要項]

一般社団法人茨城県吹奏楽連盟中央地区

第 64 回茨城県吹奏楽コンクール  
第 37 回茨城県吹奏楽コンクール中央地区大会

< 期 日 >

令和 6 年 7 月 20 日(土) 中学生の部B部門  
令和 6 年 7 月 21 日(日) 中学生の部C部門、高校生の部B部門、中学生の部A部門、高校生の部C部門

< 会 場 >

ひたちなか市文化会館 大ホール  
ひたちなか市青葉町 1-1 TEL029-275-1122

< 主 催 >

一般社団法人茨城県吹奏楽連盟・朝日新聞社

< 主 管 >

一般社団法人茨城県吹奏楽連盟中央地区

< 後 援 >

茨城県教育委員会 ひたちなか市教育委員会 茨城文化団体連合  
茨城県教育研究会音楽教育研究部 茨城県高等学校教育研究会音楽部  
茨城県高等学校文化連盟 (株)茨城放送

## 組 織

### 1 役員

中央地区大会役員	氏 名
中央地区大会会長	仁平 良治
中央地区大会実行委員長	横須賀 義章
// 副委員長	岡田 宏之、尾花 淳、鎌田 智之
// 委 員	市毛 彩子、岩浪 麻美、宇津木 佑哉、大竹 美路、荻沼 啓一、小田嶋 孝、栗股 靖典 小谷 忠、清水 勤、瀬戸山 遼介、長沼 純平、藤枝 馨子、船山 貴司、蒔田 宜幸 宮内 慶樹、山岸 正樹、山口 正男
// 事務局長	塩澤 恭平
// 事務局次長	桑名 洸典
// 事務局主事	萩庭 宏子

### 2 審査員(敬称略五十音順)

氏名	専 門
伊藤 寛隆	クラリネット(20日のみ)
大澤 健一	チューバ
恩智 聡子	クラリネット(21日のみ)
貝沼 拓実	サクソフォン
清水 大輔	作曲家
寺田 由美	打楽器
名雪 裕伸	フルート
三澤 慶	トランペット



令和6年度 中央地区代表団体数一覧

中学生A	中学生B	高校生B
7	8	3

第64回 茨城県吹奏楽コンクール 会場:水戸市民会館グロービスホール

- 8月8日(木) 高校生の部A部門
- 8月9日(金) 小学生の部、高校生の部B部門
- 8月10日(土) 中学生の部B部門
- 8月11日(日・祝) 大学の部、職場・一般の部
- 8月12日(月・振) 中学生の部A部門

## [諸注意・諸連絡]

- 1 出演者受付……受付時間に代表者が下記の手続きをする。
  - (1) 出演者受付に団体名、人数の変更等を報告し、参加負担金等を現金で納入する。出場人数増の場合は個人参加負担金を精算する。減の場合は、出演者章を調整し、個人参加負担金は減額しない。
  - (2) 誘導開始予定時刻の変更有無を確認する。
  - (3) ステージ配置図=5部を提出する。(中央地区HPよりダウンロード可)
  - (4) 出演者章(出演者+指揮者)、プログラム(出演者分)、無料入場券(2枚+進呈プログラム2部)、出演団体団員入場券、楽器運搬人(顧問を含む)のリボン20人分を受領する。(合同出場の場合は、1校につき進呈プログラム1部を受領する。)
  - (5) 参加負担金等の領収書を受領する。
  - (6) 中学生A部門、中学生B部門、高校生B部門は、地区代表になった場合の抽選を行う。
- 2 楽器置場……指定された時間内のみ利用し、演奏終了後はすみやかに搬出する。
  - (1) 指定された場所に各団体でまとめて置く。緊急避難時に備え、通路を確保する。
  - (2) 各団体の置いた場所に管理責任者を置く(ケースに目印を付け、小さくまとめて置く)。
  - (3) 演奏終了後はすみやかに搬出し、後の団体の使用に差し支えないようにする。
  - (4) 楽器の紛失、破損等の事故が起きないように十分注意すること。なお、事故の責任は当連盟では負わない。
  - (5) 借用する楽器(ハープ、チャイム等)はステージ袖に準備してある。調弦等は使用団体で行うこと。
- 3 誘導
  - (1) 各団体責任者は、誘導開始前に出演者章及び楽器運搬人のリボンを確認する(左上腕部に着ける。)
  - (2) 誘導開始時刻には、誘導受付に演奏できる状態で集合する。
  - (3) 打楽器と管・弦楽器との誘導経路は異なる。
  - (4) 移動に際しては誘導係の指示に従い、敏速かつ静粛に行動する。
- 4 リハーサル及びチューニング
  - (1) 指定された場所で指定された時間を利用して行う。指定以外の場所では絶対に音出しをしない。
  - (2) 会場内での打楽器チューニングは、打楽器搬入後に打楽器置き場で行う。ハープは楽屋前廊下でチューニングする。舞台裏や袖でのチューニングはできない。
- 5 演奏
  - (1) 指揮者・演奏者は、客席に入場する際必要になるので常に出演者章を左上腕部に着けておく。
  - (2) 前団体の演奏終了後、3分間で譜面台、打楽器等のセッティングを済ませる。  
(打楽器が多い場合は、管楽器奏者に準備・片付け手伝いをしてもらうなどの工夫をする)
  - (3) ピアノの位置は客席から見てステージの右(上手)側とする。微調整のみのピアノ移動は認める。また、ピアノは会場備品のため、通常のピアノ演奏を超えた弾き方(弦を直接弾く・たたく、ふたを取り外すなど)は禁止とする。
  - (4) ステージでは、演奏時を除きティンパニのチューニングを含め音を出さない。
  - (5) 指揮者は演奏者と同時に入場し、指揮台の横で待機しアナウンスを待つ。アナウンス終了後、指揮者のみ「礼」をし、直ちに演奏を開始する(出演者は着席のまま)。演奏終了後は演奏者を起立させ、指揮者のみ「礼」をして直ちに退場する。
  - (6) 各団体は打楽器の搬入・搬出が一度ですみやかにできるよう事前に十分指導しておく。搬入はひな壇の前を通す。
  - (7) **各団体のタイムキーパーは、おくことができない。**

## 6 結果発表

- (1) 各部門終了後に審査集計を行い、その結果は中央地区HPに掲載するとともに、各団体宛にメールで送付する。また、各団体には後日審査結果と講評を郵送する。表彰式は行わない。

## 7 録音録画・撮影

- (1) 著作権法により、当連盟が委託した業者以外の録音録画・撮影を禁止する。
- (2) 録音機・カメラ・ビデオはホール内への持ち込みができない(持参した場合は、受付に預ける)。

## 8 ホール内の鑑賞

- (1) 鑑賞には入場券(1,200円)が必要である。ただし、指揮者と出演者は出演者章で鑑賞できる。なお、出演しない団員は、出演団体団員入場券で鑑賞できる。
- (2) 客席での飲食は、一切禁止とする。
- (3) 演奏中の私語、移動及び演奏後の歓声は、審査の妨げになるので厳に慎む。
- (4) 客席では、時計のアラームを解除するとともにスマートフォンを含む電子機器の電源を必ず切る。
- (5) A部門においては、課題曲と自由曲の曲間で拍手はしない。
- (6) 3歳未満の乳幼児は客席に入場できない(母子室の使用は可)。

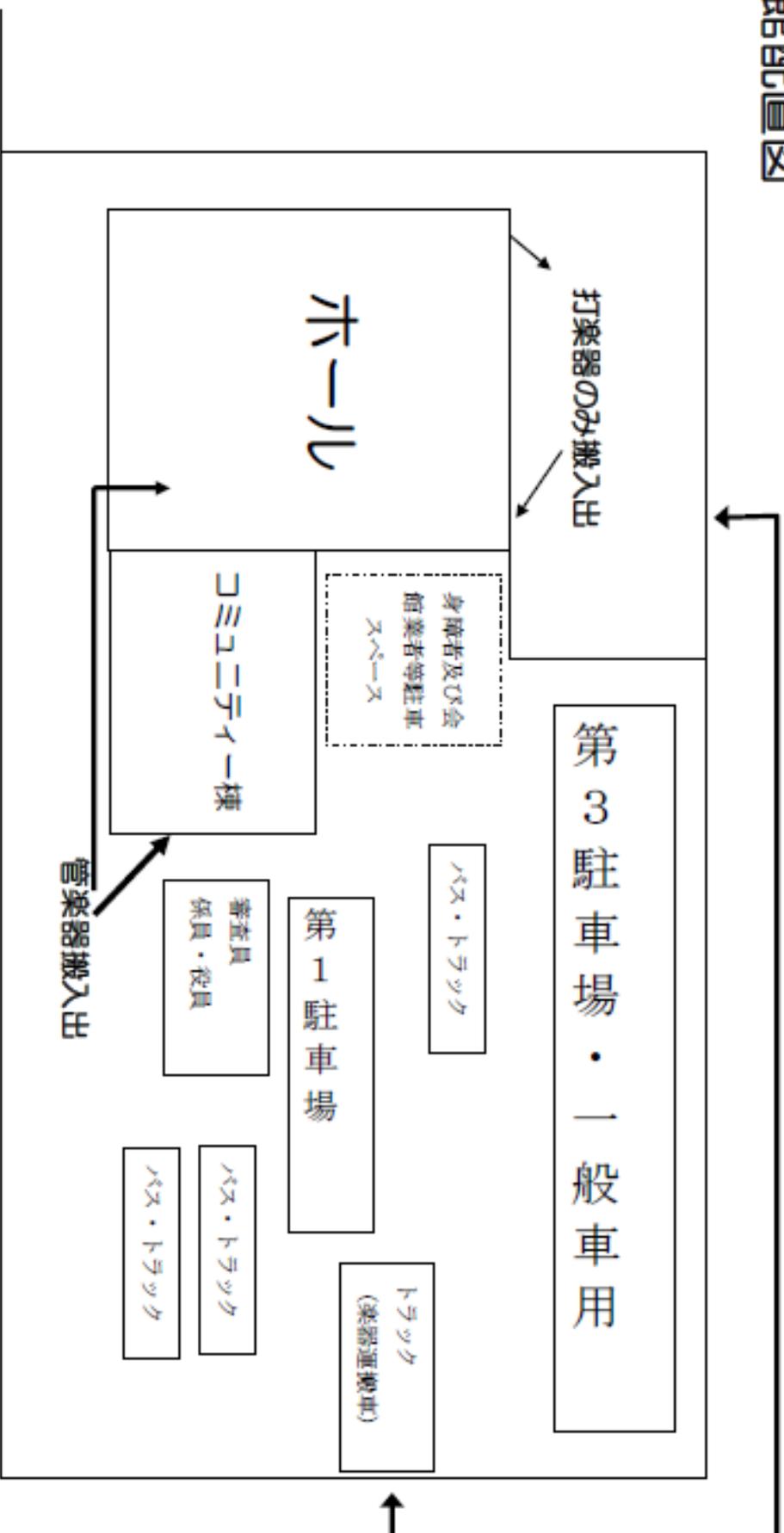
## 9 駐車場

- (1) バス、トラックは係員の指示により、決められた場所に駐車する。
- (2) 一般客用駐車場を多く設けられないため、なるべく公共交通機関を利用する。

## 10 その他

- (1) 事前打合わせは行わない。
- (2) 各団体は、大会係員(補助員を含む)の指示に従って行動する。
- (3) 天災、人災等を問わず非常事態が発生した場合、大会参加の可否については各所属長、団体長が判断する。その際、参加負担金等は後日納入する。
- (4) 事故対策は、各団体で責任をもつ。
- (5) その他、問題が生じた際は、各団体の責任者を通じて大会本部に連絡する。

# 会館配置図

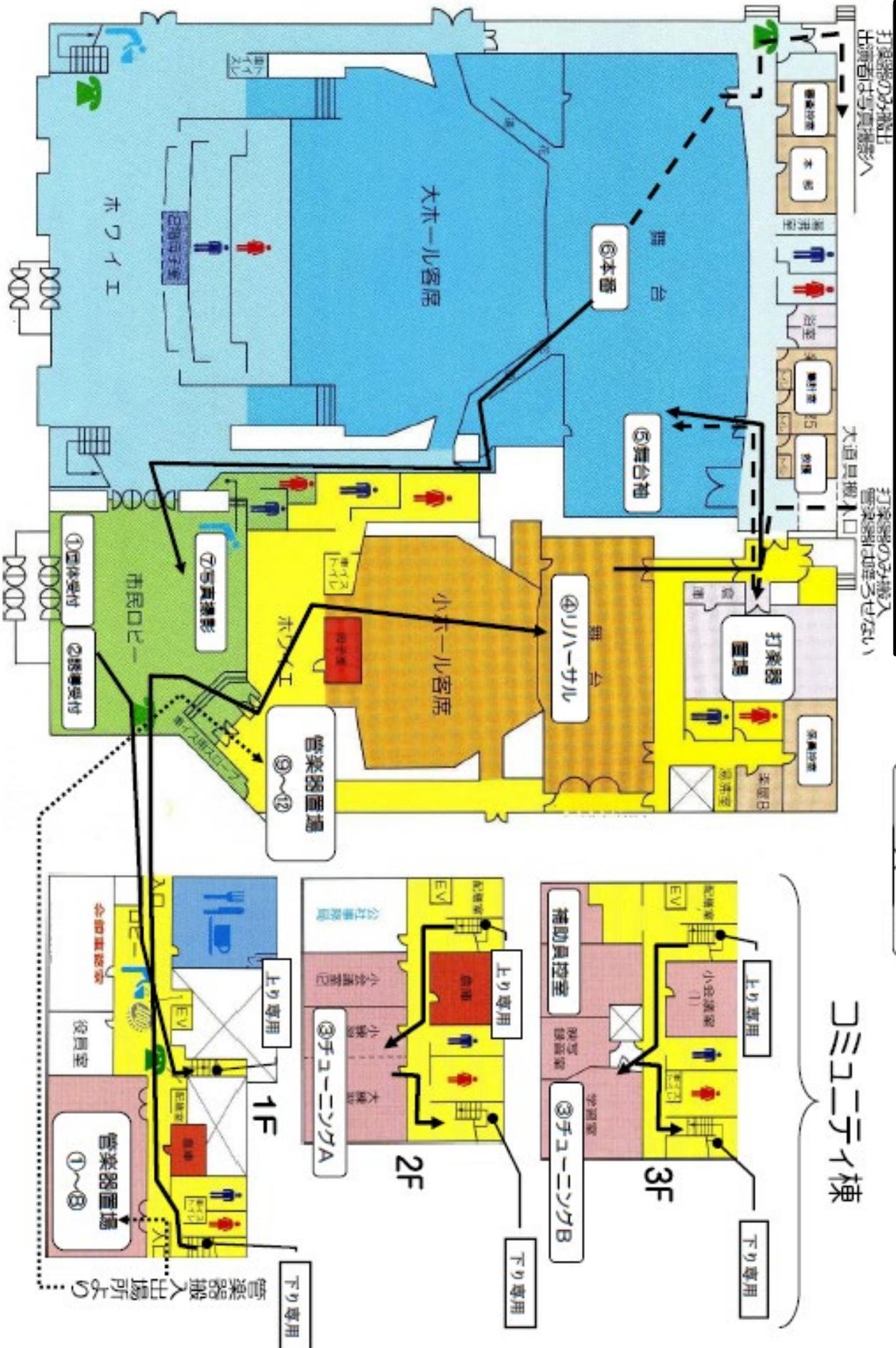


第2駐車場 (引率・一般)  
台数に限りがあります

ケーヨーD2  
ツルハドラック  
絶対に駐車してはならない！！

# 経路解説

## 第64回吹奏楽コンクール 第37回茨城県吹奏楽コンクール中央地区大会



## 本番まで

ア バス、楽器運搬車ともに第1駐車場に警備員が誘導の指示に従って駐車すること。

イ 第1駐車場で生徒は乗降し、管楽器も降ろすこと。(楽器運搬車に打楽器と管楽器を一緒に積む場合は、最初に管楽器を降ろせるようにすること。)

※ 楽器運搬車に管楽器を積まない団体はタイムテーブル通りの時間に楽器運搬車を直接裏手に回してもかまわない。

ウ 管楽器を降ろし、①団体受付が終わったら、管楽器は管楽器置き場に移動する。①団体受付で受け取った打楽器運搬人用リボンか出演者章を左上腕部に忘れずに着けること。

エ タイムテーブルに従い楽器運搬車を会館裏手に回し、打楽器を降ろし、搬入する。①団体受付で受け取った打楽器運搬人用リボンか出演者章を左上腕部に忘れずに着けること。

※ 打楽器置場を経由してステージに向かうが、楽器運搬車～打楽器置場まではリボンは必要ない。打楽器運搬人だけでなく、なるべく多くの人員で効果的に素早く荷降ろしをすること(ただし、打楽器置場からステージまではリボンが必要になりますので注意すること。)打楽器はステージ袖まで管楽器と別行動になる。

※ 打楽器のカバー、ケースはここで外して、楽器運搬車にしまうこと。打楽器置き場にケースやカバーを置いておくことはできない。

オ 管楽器は搬入後、決められた管楽器置場にてケースから出し(ケースは管楽器置場に演奏終了まで置いておくことができる)、タイムテーブルの誘導開始時刻までに演奏ができる状態で②誘導受付に集合すること。

※ 出演者章を左上腕部に着けること

カ 誘導受付より本番後の写真撮影まで係員が誘導するので、指示に従うこと。③チューニング、④リハーサルに進み、ステージ袖で打楽器と合流して本番。スムーズに入退場ができるように(打楽器出し入れも含めて)よく練習しておくこと。

## 本番後

ア 打楽器以外の生徒は、上手花道より退場し、すぐに⑦写真撮影に向かう。

イ 打楽器は搬出場所より会館の外に出る。その後の積み込みは、手伝いの方(打楽器運搬人でなくても可。楽器積込だけならリボンは必要ない)にお願いして、出演者は速やかに⑦写真撮影場所に向かうこと。

ウ 楽器運搬車は搬出時間厳守で打楽器を仮積みして第一駐車場へ移動すること。(第一駐車場で打楽器の積み直しを行うこともできる)

エ 写真撮影終了後、管楽器担当の生徒は管楽器置場に行き、楽器を片づけ、第1駐車場へ向かうこと。打楽器担当の生徒は直接第1駐車場に行き、必要があれば楽器の積み直しをすること。

## その他

※打楽器の搬出場所は屋根がないため、各団体で雨対策をすること。(カバー、ブルーシート持参等)

※楽器運搬車に管楽器ものせてくる団体は、まずバスと一緒に第一駐車場に入り、初めに管楽器を降ろし、会館裏手に移動して次に打楽器を降ろすという手順となる。乗務員に連絡指導徹底するとともに、荷降ろしの順番を配慮して積み込むこと。

※各団体で打楽器運搬人をなるべく多く依頼し(20人まで。楽器運搬車積み降ろしにはリボン必要ない。積み降ろしは20人以上でも可)打楽器運搬人と打楽器担当生徒で打楽器の積み降ろしが行えるように(管楽器の生徒が手伝わなくても大丈夫なように)すること。

※近年、打楽器運搬人のマナー低下が指摘されている。特に卒業生等に依頼する場合、服装、態度等の指導も行うこと。なお、ヒールのある靴、サンダル等は、運搬の際危険なので、指導徹底をお願いしたい。(保護者への周知もすること)